

あさひ燦々

理念 地域の人々と勤労者の方々に信頼される医療を提供します 第31号 (2019.11月号)

巻頭言



副院長就任のご挨拶

独立行政法人 労働者健康安全機構 旭ろうさい病院

副院長 齋田 康彦

平成から令和に元号が変わった5月1日、旭ろうさい病院も新病院に移転して新しい第一歩を歩み始めました。私も期を同じくして5月1日より旭ろうさい病院副院長として着任しました。前任地は、静岡県の磐田市立総合病院で消化器内科を専門として診療をしておりました。新しいところで、初心に戻って一から頑張ろうと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、旭ろうさい病院は、尾張旭市、瀬戸市、名古屋市守山区など地域の中核病院の一翼を担う病院です。地域の住民の皆様が、安心して生活できますように信頼される医療を提供出来るように職員全員で努力していきたくと思っています。そのためには、地域の医療機関との連携強化をはかり、なるべく地域で完結できる医療を目指していく必要があると考えています。そのため、8月からは、入院された患者さんで自宅や施設に退院を希

望される患者さんにある程度の期間を区切って退院するまでの準備をしていただく地域包括ケア病棟の運用を開始しました。これは、急性期の治療が終了した患者さんで退院前に少し体力的な不安や他の心配事がある患者さんの不安を軽減していただくための病棟です。詳しくは入院されたときに担当の者から説明があります。



地域包括ケア病棟 (4西病棟)

また、重症な患者さんを受け入れて集中的に治療する、集中治療室も8月より稼働いたしました。これにより高度な医療が少しでも提供で

きるようにしていければと考えております。



ICU個室

このように新しくなった旭ろうさい病院は、この地域で急性期の入院治療が必要な患者さんや地域医療機関からの紹介患者さんの受け入れをして、治療が終了した患者さんを地域医療機関と密に連絡を取り合い、皆様が安心して生活していただけるようにこれからも、日々努力して行きたいと思っています。そのため、現在必要な条件を整えて地

域医療支援病院の取得を目指しているところです。また、当院のもう一つの使命といたしまして、就労両立支援があります。人生100年時代と言われる今、病気を抱えながら、仕事をして日常生活を送る人も年々増えています。そうした方々にもしっかりと寄り添えるように就労両立支援センターを充実させて疾患に関するだけでなく、日常生活に関する事やその他様々な心配事や悩み事などの相談に対処できるようにしていきたいと思っております。

副院長として、旭ろうさい病院に着任してまだまだ始まったばかりですが、宇佐美病院長を中心に私を含め職員全員で旭ろうさい病院が皆様方に愛され、信頼され、安心してご利用していただける病院を目指して頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

特 集



「ICUの運用開始について」

旭ろうさい病院副院長 高野 学

既にご存知のように、老朽化した病院の建て替え工事を終え本年5月1日に新病院での診療を開始しました。外来診療機能を一つのフロアにまとめることで、旧病院で問題となっていた動線の長さを解消することが出来ました。病棟部門においては看護体制を組み替え、集中治療室と地域包括ケア病棟を新設しました。

集中治療室と一般病棟の違いとして挙げられることは入院している患者さんの病名を限定しないということです。一般病棟は外科系病

棟・内科系病棟あるいは状態の悪くなっている臓器（肺、消化器、心臓等）に特化することで、疾患に対する知識が深まり、より高度の治療が可能となります。このため疾患単位での病棟編成が行われています。一方病気・怪我などにより体の状態が急激に悪化した際には、複数の臓器障害を生じ、全身状態は不安定になり生命の危機的状態が生まれます。この状況から早期回復するためには専門的な治療を多臓器にわたって治療を行う必要があります。急性期管理を集約して行う部門が集中治療

室となります。



ICU病棟

急激に病状の悪化が懸念される“意識障害”、“呼吸不全”、“心臓病”、“薬物中毒”、“ショック”、“臓器不全”、“感染症”、“高度外傷”の患者さんの治療にあたるため複数科の医師が協力して治療に当たります。とは言っても医師のみでの治療は困難です。看護師部門は集中治療の急激な病状の変化に備え、患者さん数：看護師数は昼間は1：1、夜間においても2：1の看護を行っています。これにより重篤な状態の患者さんの小さな身体的変化にも柔軟な対応を行うことが可能となりました。また集中治療に特化する看護スタッフを配置することで、幅広い知識と技術をもった医療を提供し

ています。

集中治療においては多職種連携が必要です。薬剤師は集中治療チームと連携し薬剤の的確な情報を提供し、薬剤の投与量・投与経路の提案を行っています。また臨床工学技士は高度医療機器のスペシャリストとして人工呼吸器、人工透析装置、輸液ポンプなどの組み立て、操作、安全管理などを担当しています。



ICU病棟

病棟機能の分業を行うことでより高度で安全な医療を提供できるようになり、今後の救急医療を含めて地域医療の中で十分な診療体制を整えることが出来ました。今後のろうさい病院の診療にご期待ください。

診療トピックス

新病院の透析室について



腎臓内科部長 市川 匡

令和元年5月1日から新病院に変わり、透析室は2階に設置されることとなりました。新しい透析室になり、透析ベッドが今までの10台から13台に増え、同時に透析できる

患者数が増えました。ベッド間の間隔が今までよりも広くなり、感染の面や患者様およびスタッフの移動において負担が減るように設計されています。また感染対策の面から

個室透析室も併設したため、インフルエンザに罹患した、あるいは疑いのある患者様でも他の患者様と時間をずらすことなく透析を行うことができます。透析機械、システムも一新されました。大きなところでは on-line HDF を行なうことが可能になりました。また毒素を除去する効率は今までは透析前と後の採血データをもとに計算をしていましたが、新しい透析機は透析を行いながら効率を自動で計算してくれます。



透析室

新しい透析機は電子カルテシステムと連携をとれるようになり、透析の状況がより詳細に電子カルテに伝わる様になりました。体重計と透析機の連動も行えるようになり、計測した体重が透析機に取り込まれ、患者のデータ間違いのリスクを下げることができます。

ここ最近では災害が日本全国的に続いており、当院の透析室でも透析中に南海トラフ地震が発生した際にはこういった避難をすると安全かといったシミュレーションをおこなっておりましたが新病院では建物自体の耐震性も向上しており、地震など災害時の安全度もかなり向上しています。

新しい透析機で行える on-line HDF につき説明させていただきます。on-line HDF は hemodialysis : HD (透析) と hemofiltration : HF

(濾過) が複合した治療法であり、膜技術により清浄化した透析液を置換液 (補充液) として用いる浄化療法です。

HD (透析) とは、血液をダイアライザー (透析膜) を通して透析液と接すると尿素窒素やクレアチニンなどが透析膜にあいている小さな穴を通過して透析液に滲みだします。この性質を利用して体内に蓄積した尿毒物質を除去し、あわせて半強制的に除水します。

しかし尿毒物質の中には大きな物質が含まれていることが分かってきたため、大きな物質をより効率よく除去する治療法が考えられました。それが HDF (血液濾過透析) です。HDF は大量の水分を容易に濾過できる膜を使って体液の一部を廃棄し、同時に大量の補充液を体内に注入する。体の体液を一度除去して、新しいものを入れて置き換える治療です。HDF は分子量が大きい尿毒を効率よく除去できます。しかし尿素窒素やクレアチニンのように分子量が小さい尿毒を除去する効率は HD より劣るため、HD を併用して分子量が小さい物質から大きい物質まで効率よく除去できるよう工夫されています。HDF のメリットとしては、透析低血圧 (透析困難症)、透析アミロイド症、腎性貧血、掻痒感、イライラ感、不眠などの症状緩和につながる、などあげられています。デメリットとしては、アルブミンなど生体にとって重要な蛋白が除去される、小分子の除去効率が低くなるなどがあげられます。

今後必要に応じて on line HDF を相談のうえ提案させていただきます。

教えてドクターQ&A

【質問】

私が受ける健康診断では、胃の検査をバリウム検査と胃カメラのいずれかから選択することになっています。最近では胃カメラの性能がすごく良くなっていると聞きますが、なんだかカメラを飲むのが怖くてバリウム検査しかやったことがありません。胃カメラのほうがよいのでしょうか？教えてください。(50代女性)

いままで胃がん健診といえばバリウムによる胃 X 線検査が一般的でしたが、最近では胃内視鏡検査で検診を受けられる方も非常に多くなってきました。

胃 X 線透視検査が胃の粘膜の凹凸や不整を影絵のように間接的にみるのに対し、胃内視鏡検査は直接胃の粘膜を観察することができます。早期の胃がんは凹凸がわずかしかないものや、色調の変化としてやっと認識できるような平坦なものもあり、胃 X 線検査では病変の指摘が困難な場合があります。その点胃内視鏡検査は、病変の発見において非常に優れています。また、胃内視鏡検査ではがんを疑った場合、その場でその組織を一部採取して病理診断を行うことも可能です。



「胃カメラを飲むのが怖い」とのことですが、その気持ちも十分理解できます。ただ、最近では内視鏡も非常に進歩しています。以前は口からの挿入（経口内視鏡）が一般的で苦痛が強かったですが、最近では鼻から挿入できる内視鏡（経鼻内視鏡）が多くので導入されており、より苦痛の少ない方法で検査を受けることも可能です。

ぜひ一度胃内視鏡検査での健診を受けてみてはいかがでしょうか。

(消化器内科主任部長 小笹 貴士)

～病院バス運行体制の変更について～

令和元年 10 月 1 日（火）より病院バスの運行体制が変更となりました。ご利用される皆様におかれましては、ご不便をおかけいたしますがご理解のほど、よろしくお願いいたします。

詳細につきましては、院内掲示及び病院ホームページをご確認ください。

(<http://www.asahih.johas.go.jp/index.html>)

～市民公開講座について～

令和元年11月9日（土）に新病院5階会議室で当院医療安全管理者による「安全な医療を受けるための大事なポイント」の市民公開講座を行い、多数の市民の皆様にご参加頂きました。

次回の予定は当院副院長・小児科主任部長による12月14日（土）「発達障害ってなんだ??」を行います。予約不要、参加無料となっておりますのでぜひご参加ください。

～中学生職場体験について～

令和元年10月17日（木）から二日間、旭中学校の皆さんが当院にて職場体験をされました。患者さんと接する病棟体験はもとより、薬剤部、放射線、検査科、リハビリなど日頃目にする事のない病院内部の部署をまわり、充実した二日間を過ごされました。職場体験にきていただいた皆さん、ありがとうございました。大人になって、当院で一緒に働ける日を楽しみにしています。



～クリスマスイベントについて～

新病院で迎える初めてのクリスマス。当院では12月9日（月）にボランティアのピッコロマンドリーノの皆さんによるクリスマスコンサートを1階総合受付の正面玄関で行います。当日は「クリスマスメドレー」をはじめ、クリスマスムードたっぷりの演奏を行います。また、これまで中庭で行っていたイルミネーションを各階のデイルームで行うこととなりました。詳細につきましては、院内でお知らせいたしますので是非お楽しみください。



【編集後記】

日本中に感動を巻き起こしたラグビーワールドカップも11月2日の決勝でイングランドを倒した南アフリカの優勝で幕を閉じました。日本を準々決勝で粉砕した南アフリカは強かった！日本代表はベスト8で止まりましたが、予選リーグは全勝で素晴らしい成績でした。特に格上のアイルランド戦や、因縁のスコットランド戦では、一糸乱れぬスクラムや献身的なタックルなど、私たちの胸を熱くするプレーが見られました。日本代表のスローガン「ONE TEAM」は出身や経歴などが異なるメンバーたちが、仲間を信頼し心をつなげて困難に立ち向かうという意味です。旭ろうさい病院も「ONE TEAM」を目指して地域や勤労者の皆様に貢献できるようにありたいと思います。

広報委員長 小川浩平